

問

清水 貞夫 議員

# 美里町活性化と耕作放棄地解消について

答 乗り越えなければならぬ課題がありますが（町長）

我が町においても高齢化と人口減少が進む中、人口流出防止・人口増加につながる対策が必要だと思います。また、農業経営者の高齢化に伴う耕作放棄地がふえ、イノシシ・シ



予定地 (白石地内)

カ等が農地を荒らす被害も多発し問題視する点があります。そんな中、町の活性化につながる、若い人たちにも夢を与える産業と思いが質問します。

畜産農家組合の方から聞いて感銘した事業計画です。牛ふんを原料とし、バイオマス発電でのリサイクル事業として産業化を目指すものです。また、廃棄物から出る食物繊維くず、70度の無臭水を有効活用した関連事業として、例えば、水耕栽培や養殖産業等の見込みもあります。

まずは円満に事業計画が

進むよう、町の協力をいただき進めたいと思うので、町長の考えをお聞かせください。

町長

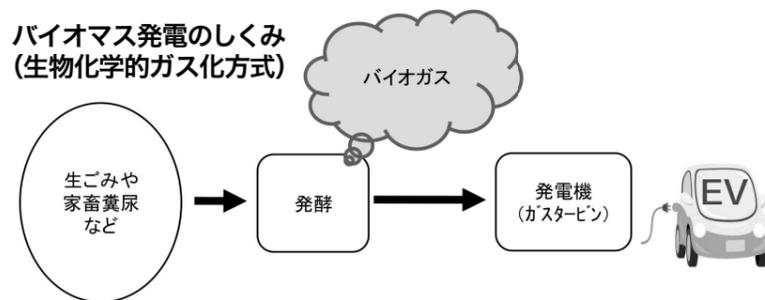
バイオマス発電については、農山漁村再生可能エネルギー法の規定により、実施に当たっては、町・地域住民・農林漁業者及び再生可能エネルギー電気の発電を行う事業者等の密接な連携、適切な調整が必要となります。地域住民の生活環境保全のため、騒音・臭気・水質汚濁防止等の対策や発電施設から発生する副産物の処理方法など、解決を要する課題が多くあると思われます。

また、農用地区域内の場合

は、農業振興地域の整備に関する法律上の手続、農地転用については県の許可が必要となるので、具体的な建設予定地や事業計画の提示など事前にも県に相談した上、転用の可能性を判断することになります。

バイオマス発電については、乗り越えなければならない課題がかなりあると思うので、どんな課題があるのか、それが解決できるのか、そういったところをまず判断をしていただいた上で、実現の可能性を研究されたらと考えています。

### バイオマス発電のしくみ (生物化学的ガス化方式)



問

根本 孝代 議員

# 「こども医療費」の対象年齢を18歳まで拡大することについて

答 課題等を整理し、具体的に案が示せる段階になり次第協議します（町長）

問

町の児童福祉対策を見ると、医療費の扶助については、「こども医療費」との名称で平成24年4月から対象年齢を15歳まで拡大しています。これにより、給付対象者である中学校修了前の子どもを持つ家庭は、医療費無料という恩恵を受けています。平成29年3月末の対象者数を見ると1397人であり、医療費の支給額は3786万9877円です。子育て家庭にとっては、非常に頼もしい経済的支援となっていると思います。



美里中学校卒業式

小中学校の教室内にエアコンを設置した町です。このことは、将来をにらみ、人材育成に尽力を惜しまない町のあかしでもあります。また、平成29年4月の美

町長

県内のこども医療費支給事業は、既に14の市町村が18歳年度末まで拡大をしています。対象年齢拡大の課題としては、事業内容の検討のほか、児玉郡市・本庄市児玉郡医師

会や歯科医師会・薬剤師会との調整が必要です。しかしながら、深谷市・寄居町の市町でも拡大をしていることから、課題等を整理し、具体的に案が示せる段階になり次第協議します。



里町年齢別人口を見ると、5歳までの子どもが465人、6歳から11歳までが529人、12歳から14歳までが313人の合計1307人、また15歳から17歳までが308人とのことです。対象年齢を18歳までとしても300名ほどの増加です。さらに、敬老祝い金の廃止が平成30年度から実施されると聞いています。この予算をこども医療費関係に充てることはできないのでしょうか。



こども医療費の対象年齢を18歳まで広げることについて、どのように考えているか伺います。



問

塩原 浩 議員  
町民の命と財産をまもる  
洪水ハザードマップ

答 必要な対策が打てるようにしていきたい(町長)

問

美里町洪水ハザードマップを見ると、小山川については浸水想定区域が示されています。この想定では、24時間の降水量が270ミリ、時間最大86ミリとありますが、この想定をはるかに超えたのが九州北部豪雨で、福岡県朝倉市では545.5ミリで24時間の降水量の値がこれまでの観測記録を更新しました。

をとるのか判断に迷うところ。より安全な避難場所、避難ルートを確認するためにも、ハザードマップを見直し洪水浸水想定区域を示す必要があると思います。

町長

志戸川及び天神川については県の調査の結果、洪水により相当な損害が生ずるおそれがある河川とは認められなかったため、洪水土砂ハザードマップの作成が義務づけられていません。

問

最近の気象予報では、3時間先までの流域雨量指数を予測し、危険度を

5段階に判定し、色分けして表示されますので、河川の氾濫を予想し、早い段階で避難勧告、避難指示が発令できるようにになりました。町民の住まいが、浸水の可能性があるのか、できるだけ早く浸水想定区域を示す必要があると思います。

問

新築住宅等について集めています。

は、地震は耐震基準があり、崖崩れによる土砂災害は条例で制限されていますが、水害については、自分で守らなければならない状態です。どの程度かさ上げすれば被害に遭わないか知ることで、減災につながるものと思います。

町長

少し状況を見ながら、県がつくってくれないのなら、単独でハザードマップをつくる必要性というものも感じています。補助事業をうまく活用しながら、必要な対策が打てるようにしていきたいと思えます。



天神川にある水位計

町では、志戸川及び天神川周辺の町民に対しても、適切に災害情報の提供ができるよう、駒衣地内の志戸川・和田橋及び甘粕地内の天神川・北口大橋に目視で水位を確認できるように水位計を表示しました。想定を超える雨量にも、迅速に対応できるよう情報を収集

問

櫻沢 保 議員  
「追いつき、追い越せ  
平均寿命」について

答 受診率の向上等により平均寿命の改善を図りたい(町長)

問 人間、誰しも幸せになりたいと考えていると思います。

目指せ～100歳



みんなで楽しく笑顔の新横サロソ

幸せの中身は、人それぞれに多少異なっていると思いますが、私は健康で長生きが一番幸せではないかと思えます。

しかし、平成29年3月の町の国民健康保険データヘルス計画によると、美里町の平均寿命は、男性が77・46歳、女性が84・56歳です。

一方、同年7月に発表された政府の統計によると、全国の平均寿命は、男性が80・98歳、女性が87・14歳とされており、男性は、3・52歳、女性は2・58歳、全国の平均寿命より短くなっています。これは大きな問題ではありませんか。

そこで、町長に3点お尋ねします。

①美里町の男性の平均寿命が短いことを、どのように認識し、その原因・理由は、どのようなことと考えていますか。

②特定健診の受診率の目標は50%。しかし、実績は44.6%と低く、特に40～50歳代の男性の受診率は、ここ数年20～25%になっています。受診率、低いと思いませんか。働き盛りの40～50歳代の若

い人が、万が一、亡くなるとその家庭に大きな精神的・経済的な悪影響が生じます。

また、その結果等として町の平均寿命も大きく引き下がります。

③保健センターの体制を強化し、食の改善等についてもより一層積極的に取り組みを行い、「追いつき、追い越せ平均寿命」等のスローガンのもと、大いに頑張ってくださいと思います。

非常勤職員の活用等も含め、保健センターのさらなる体制強化について、町長の答弁を求めます。

町長

①県を100としてみると、脳血管

疾患が県の約2倍発生しており、平均寿命の低い原因と考えています。ミムリンときめき健康増進計画に基づき病気の早期発見・治療・予防等に努め平均寿命の改善が図られればと考えています。

②受診率の低さは認識しており、集団検診を受けられなかった方には、個別の受診を促していきたい。

③体制の強化については、保健センターと包括支援センターをセットで充実させていかなければと考えており、ケアマネ・管理栄養士等、町民の健康づくりに対応できるような人員の採用等を考えていきたい。



問

田端 恵美子議員

町の文化協会、体育協会の補助金について

答 近隣市町と同額にさせていただきたい(町長)



町では、誰もが生涯を通して気軽にスポーツ・芸術・文化全般に

わたり学習できる環境整備を推進し、心身ともに健康で一人ひとりが生き生きと

輝いて暮らせるための学習や活動機会のための各種事業を行っています。文化協会・体育協会においては、

スポーツイベントや町民祭を初めとする各種事業でも活動いただいているところ

000円、寄居町が4万円となっています。文化協会を通じて加盟団体へ交付している補助金は、均等割が3万3000円と文化祭への参加補助金1万円の合計4万3000円のほか、作品展や福祉施設等への慰問

問

今後人口減少が進む日本にあって、国の活力や国民の生活満足度を維持する鍵となるのは文化の力です。心の余裕という

町がこれから力を入れていかなければいけないのは、社会体育・生涯学習を含めた活動ができる場所をしっかりと使えるようにしていくことが第一かと思っております。まずは施設の維持管理にある程度お金をかけていく必要があると思うので、文化・体育団体についても補助金の見直しをせざるを得ないと考えています。

町長

体育協会加入団体が15団体、文化協会加入団体が26団体ありますが、各種団体の補助金と近隣市町の状況を伺います。

町長

体育協会を通じて加盟団体に交付している補助金は、1団体当たり8万円です。近隣市町の状況は、本庄市が5万円、神川町が1万円、上里町が4万5

00円と人数割500円、上里町及び寄居町が均等割のみで1万円を交付しています。近隣市町と比較してみると、美里町の補助金額が高く

なっていることから、来年度から段階的に引き下げ、近隣市町と同額程度にさせていただきたいと考えています。

町がこれからの力を入れていかなければいけないのは、社会体育・生涯学習を含めた活動ができる場所をしっかりと使えるようにしていくことが第一かと思っております。まずは施設の維持管理にある程度お金をかけていく必要があると思うので、文化・体育団体についても補助金の見直しをせざるを得ないと考えています。



体育協会主催のハーフ駅伝大会

問

内田 三郎議員

美里町商工会育成助成金が29年度において削減になった理由について

答 繰越金がある上に県からの補助金も同額程度見込まれているので(町長)



美里町商工会は、美里地域の経済にかかわり、地域の事業者の推進役となっている。多くの会員が加入しており、美里地域の商工業の発展に寄与

している。加入会員は、資本金1000万円以上の法人38社、資本金1000万円未満の法人76社、個人その他142となっております。

また、商工会の業務は、年々多岐にわたって増加しており、その深度も専門的になって、その一部に経営革新支援事業・小規模事業者持続化支援事業なども新たに加わり、しかもその従前の金融・税務・経営なども継続の事業として進めなければいけない。そして、会員・非会員の区別なく、対応しなければならぬという状況です。削減となる事業がないのが実情となっており

町長

商工会の業務については、経営相談や経営指導・事務代行・経営革新支援事業のほか、商工祭の開催など多岐にわたっています。町としては、これらの活動を支援するとともに、商工会の育成を目的に平成26年度から28年度までの間は、毎年930万円の助成金を交付してきました。昨年度の見直しに当たっては、商工会職員への聞き取りのほか、事業内容や過去の決算状況を確認しました。

その結果、平成27年度決算では500万円を超える繰越金がある上、平成28年度予算においては、主に人件費に

対し交付される県からの補助金が例年と同額程度見込まれる中、職員の若返り等により300万円を超える人件費の減少が見込まれました。このことから、町の助成金を230万円削減したとしても、これまで行っていた事業に影響がないと判断したところで

なお、平成30年度においても、平成29年度と同額を考慮しています。

今後においても、町商工業の発展に資する事業については、積極的に支援していきたいと考えています。



また、商工会の業務は、年々多岐にわたって増加しており、その深度も専門的になって、その一部に経営革新支援事業・小規模事業者持続化支援事業なども新たに加わり、しかもその従前の金融・税務・経営なども継続の事業として進めなければいけない。そして、会員・非会員の区別なく、対応しなければならぬという状況です。削減となる事業がないのが実情となっており

その結果、平成27年度決算では500万円を超える繰越金がある上、平成28年度予算においては、主に人件費に

